

「スタンプを自作する(8)」

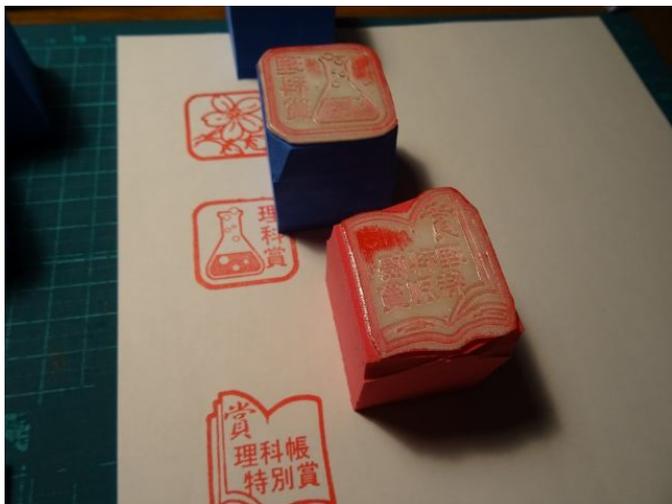
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



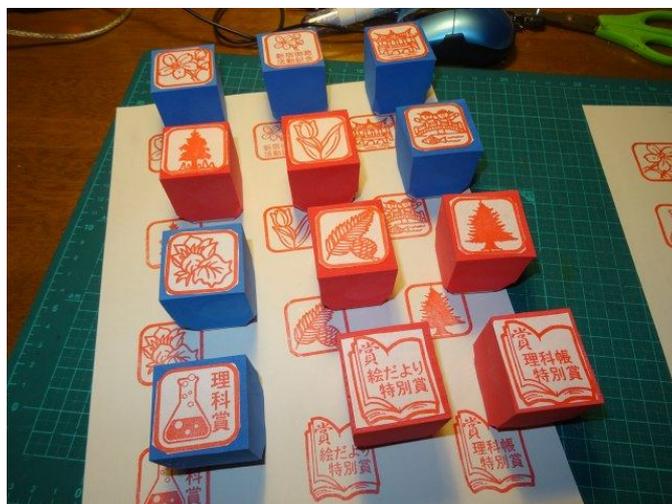
全部の印面を貼り終わった。1枚の紫外線硬化樹脂(はがきサイズ)から12個を一気に作れた。私は「かなり」慣れているので、原稿作成から12個のスタンプ完成まで、約40分だった。1個や2個なら15分程度で完成するので、依頼してきた同僚がいつも驚くことになる。



まずは、「試し押し」をしてみる。この作業で、できたスタンプが原稿通りに完成しているか、はじめてわかる。スタンプ台もいろいろな種類があるが、「染料系」(インクのみスタンプ台)よりも、「顔料系」のスタンプ台のほうが印影がはっきりして良い。木材やプラスチックに押印する場合は、マジックインキのような「有機溶剤系」のスタンプ台を使う。「不滅スタンプ台」といった名称で市販されている。



印面と逆の面(上面)には、シールに押し印影を貼っておくと、スタンプの種類や上下を間違えることがなく、便利だ。



こうして12個のスタンプができた。素人の手作りの割には、まあまあの出来栄えだと思う。



ついでに、板目紙で箱も作って、依頼者の同僚教師に「納品」した。とても喜んでくれて、「教師なんかやめて、ハンコ屋さんを開業したら?」と言われ、一瞬本気にしてしまった。